4. 名張につたわる ことば・うた・あそび

わたしたちの生活の中には，むかしからつたえられてきたものがいろいろあります。どうして今までのこっているのかな。きっと何かわけがありそうだよ。

1. 名張のことば

「**あれっこわい**。おたえらにごっつぉをあんばいにこさえてもうて，おおきにやで。」

どんなことをつたえているかわかりますか？

上のことばは「まあ，びっくりした。わたしたちにごちそうをじょうずに作ってくれて，ありがとう。」と言っているのです。さい近ではこのような名張ことばはつかわれることが少なくなりました。

2006（平成 18）年「名張のことばでかるたを作る会」の人たちは，「むかしの人びとの生活の中から生まれたちいきのことば（方言）を大切にのこしていきたい。」という思いから，「名張方言かるた」を作りました。

＜例＞

名張の方言	い　み
まくれる	ころぶ
ちびたい	つめたい
～だあこ	～してください
ゆわんといて	言わないで
わんならす	わるくする・こわす
はっちょみとこ	あれやこれや

名張 方言かるた

「方言」い外にもつたえていきたいものをさがしてみましょう。

2. 名張のうたやおどり

祭りでおどられる名張音頭

名張では，それぞれの町の夏まつりやぼんおどりなどで，親しまれているうたやおどりがあります。

名張音頭は，1930（昭和 5）年，参宮急行電鉄（今の近畿日本鉄道）がかい通し，名張えきができたおいわいとしてうたわれたのがはじまりです。その後，1950（昭和 25）年に赤目四十八滝が日本かん光地百せんにえらばれたとき，歌しをかえてうたわれ，1964（昭和 39）年には名張市が生まれて 10 年目をむかえた記ねんにレコードを作り，みんなに知られるようになりました。

名張音頭レコード

名張音頭

一
みどり小そでに　かくれてさいて
だれをまつ香落の　いわつつじ
エーエーエー　エンエーン
コリャア　イェンナ　コリャコリャ

二
赤日香落の　滝つせ川せ
こよいまた河鹿の　うれしなき
エーエーエー　エンエーン
コリャア　イェンナ　コリャコリャ

三
赤日四十八　天下の滝よ
もみじのにしきを　きておちる
エーエーエー　エンエーン
コリャア　イェンナ　コリャコリャ

四
あついさけが　とろりとしみる
赤日また香落の　雪見酒
エーエーエー　エンエーン
コリャア　イェンナ　コリャコリャ

五
滝におわれて　せ下る小あゆ
だれをまたうき名を　名張川
エーエーエー　エンエーン
コリャア　イェンナ　コリャコリャ

六
ないて夜あかす　山しょう魚の
なみだやら　赤日のいろは滝
エーエーエー　エンエーン
コリャア　イェンナ
コリャコリャ

ほかにも名張のきせつのようすが入っている「新名張節」や，「ソヤテ　ソヤテ　ホンマヤテ」と名張の方言が入る「名張小唄」がうたわれています。

名張子どもでんとうげいのうまつり

名張音頭や新名張節，名張小唄のことを多くの人に知ってもらい，うたい，おどってもらうために，「名張音頭保存会」の人たちが，みらいへつたえていく活動をしています。これらのうたやおどりは，名張桜まつりや名張子どもでんとうげいのうまつりではっぴょうされています。

イベントやおまつりにさんかして，いっしょにうたったり，おどったりしてみてはどうですか。

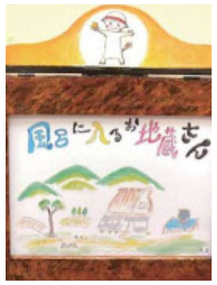
3. 名張につたわるむかしばなし

むかしばなしには，それぞれの時だいに生きた人たちのねがいやいのりがこめられています。

頓子地蔵（朝日町・短野）

むかし、村の人もうらやむなかのよいふうふがすんでおった。ただ、子どもができないことだけが、ふうふのなやみのたねであってな。なんとかして子をさずけてほしいとねがっていた時、一人のおぼうさんがやってきてつげた。「とんこ山の子やす地ぞうさんの前を通りかかったところ、どういうわけか、おな子だからにめぐまれるであろう。」・・・

風呂に入るお地蔵さん（丈六）



むかし、赤目の丈六の道ばたに、お地ぞうさんがひとつあったそうや。ある夜、村人がお地ぞうさんの前を通りかかったところ、どういうわけか、お地ぞうさんがおらんようになっていた。

「ありゃあ、おかしいぞ。たしかここにあったんじゃがなぁ。ふしぎなことじゃのう。」・・・

八幡の弓名人（八幡）

そのむかしの正月十七日、八幡村のわかいしゅうが京都へあそびに行って、あたごじんしゃへまいったそうや。じん社でおさむらいさんが弓をいるれんしゅうをやっていましてな。村のしゅうがきょうみぶかげに見ぶつしていましたんや。おさむらいさんは弓に矢をつがえて、まとにむけてはなつんやが、へたくそなのかどうにもまとにあたらん。

「なあんや、なかなかあたらへんやないか。」・・・

鏡池にうつったかみさま（夏見）

むかしむかし、夏見の田んぼでいねかりをしてるとな、

「おーい、おーい。」

どこからともなくよぶ声が聞こえてきましてんわ。村人はいねかりの手を休めて声をたよりに歩いていくと、池の水にりっぱな白はつのじいさんがうつっておったんや。・・・

子守りきつね（下比奈知）

むかし、赤んぼうをおんぶしながら、女の人が、山でたきぎをひろっていたんや。そのうち赤んぼうがねてしまったので、せ中からおろしてたきぎをあつめたんや。たくさんひろいあつめたんで、それをせ中にしょって山を下っていったんや。たきぎをせ中にしょっていたからか、赤んぼうのことはすっかりわすれてしまっていたんや。・・・

せんがりの田（長瀬）

長瀬村の人びとはむかし、長じゃともなかがようて、毎日田はたに出てしごとにはげんでおった。それは、ある年のいちばんあつい夏の日のことやったそうな。いつものように村のしゅうがしごとにでてみると、おどろいたことに、田んぼの水がすっかりひ上がっていた。ひどいひびわれができて、とても米ができそうにないほどじゃった。・・・

紙しばい

＊一ぶをへんこうして出だしぶ分をのせてあります。

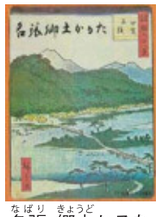
資料　『なばりの昔話』『続 なばりの昔話』より

（採話・編集　三重県立名張高等学校郷土研究部）

「語り部」としてつたえつづけている人や、大がた紙しばいを作り，子どもたちにつたえている人たちがいます。

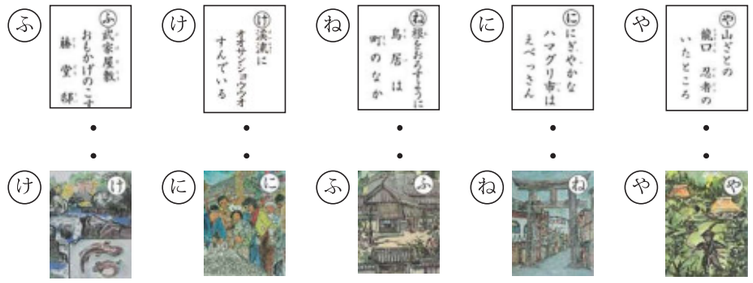
ふるさとにつたわるお話を聞いたり読んだりしてみましょう。

4. ふるさとをつたえる「名張郷土かるた」


名張 郷土かるた

「名張郷土かるた」は，楽しみながら名張のれきし（むかしのできごと）やむかしからあるものを知ってほしいと考え，1979（昭和54）年，名張青年会議所が作りました。このかるたでは，名張のどうぶつや草木などのしぜんのようす，行じ（おまつりなど），名ぶつなどをうつくしいイラストでしょうかいしています。名張の子どもたちが，ふるさとをみんなでまもりつづけていく心がそだつように気もちがこめられています。今でも，「子ども名張郷土かるた大会」をひらき，名張のようすをいろいろな人がうけつぎ，つたえていくど力をしています。

下の絵ふだと，上の読みふだを線でつないでみよう。



5. むかしからつたわる遊び

多くの小学校では，地いきの人から，あやとりなどむかしのあそびを教わり，いっしょに楽しむしゅう会をひらいているようです。どんなあそびがあるのかな？

あやとり

(1) おしくらまんじゅう

「おしくらまんじゅう，おされてなくな」の歌声に合わせて，みんなの体と体をふれ合わせてあそぶ冬のあそびの一つです。

そのほかにも体をうごかすあそびや，みのまわりにある道ぐをつかう，いろいろなあそびがありました。

(2) かごめかごめ

おにが目をかくしてまん中にすわり，そのまわりをほかの子がわになって，歌をうたいながらまわります。

うたいおわったときに，おにが自分の後ろにいる人を当てるあそびです。

(3) お手玉

お手玉は「おじゃみ」ともよばれ，うごきに合わせたとなえ歌をうたいながらあそびます。

あそび方として，お手玉を二つつかい，一つずつなげる「二こゆり」や，三つのお手玉をじゅん番になげ上げて，りょう手をつかってあそぶ「三こゆり」などがあります。

リズムがよく，はずんでいるような「お手玉かぞえ歌」があり，名張にも，楽しんでうたわれていたかぞえ歌があったようです。

八幡地くにつたわるうた

おてだま　かぞえうた

一番はじめは一の宮
二に 日光の 東照宮
三は さくらの吉野山
四は また信濃の善光寺
五ツ 出雲の大社
六ツは 村々天神さん
七ツ 成田の不動さん
八ツは 八幡の八幡さん
九ツ 高野の高坊主
十デ ところの氏神さん

お手玉

こま

ほかにも「こま」「竹馬」「石けり」など，むかしからつたわるあそびはたくさんあります。おうちの人や地いきの人から，教えてもらって，あそんでみましょう。